

SCHOOL DATA

〒275-0025 習志野市秋津3-1-1
 TEL 047-451-8111 FAX 047-451-8112
 ■児童数/346人 ■教職員数/25人 ■周辺環境/住宅地(埋立地) (平成21年5月1日現在)



【湿原性ビオトープ】



【ビオトープの田んぼでの脱穀】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/400㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/2000年
- 直近の改修年/2006年
- 主な管理者/地域ボランティア・ビオトープ委員会児童

【生息している動物】

メダカ、カメ、カニ、シオカラトンボ、アキアカネ、イトトンボ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、サギ、カルガモ、バツ

【生育している植物】

コガマ、スイレン、イネ、ススキ、ヨモギ等

【今後生息・生育させたい生物】

野鳥、サンショウ、アゲハ類

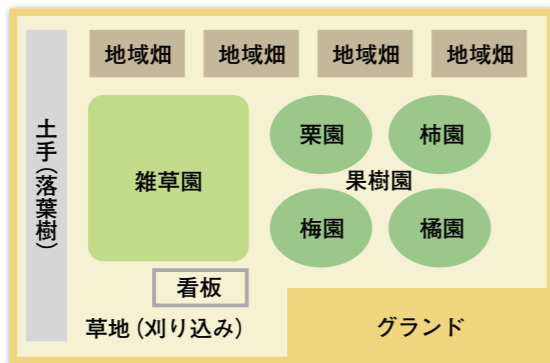
【コンセプト】

本校は、東京湾の谷津干潟に隣接した埋め立て地に位置している。創立以来30年を経過し、学校敷地外縁部にはサクラ、マテバシイ、ケヤキ、ポプラ等の樹木が生育し、特に西側マラソンコースは緑のトンネルとなっている。また、地域の協力で植えられた果樹も多く、クリ、ビワ、カキ、ナツミカン、ウメ、サクランボ、カリン、クワ等も季節毎にその実りで子どもたちを楽しませてくれる。かつて30学級以上あったときの学級園の大半は地域の希望者に「農園」として開放し、ここでもまた四季折々の作物が栽培され子どもたちに季節を知らせてくれている。

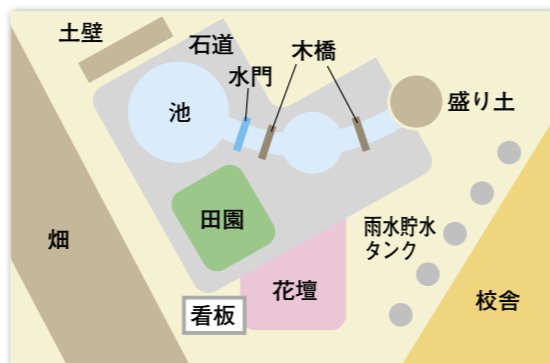
9年前にPTA・地域の皆さんの協力で設置されたビオトープには、千葉の原風景をコンセプトに、泉、小川、池、田圃が配置されている。5年生の水稲栽培を中心に、池や周辺緑地の生き物の観察や採集などに全校児童が関わるほか、地域のお年寄りが四季折々散歩に訪れ、就学前の子どもも大人に連れられてビオトープを訪れている。

今回の改修では、学校全体を「ビオトープ」と位置付け、池や田圃ばかりでなく学校敷地内の草地や周辺の果樹園等も生物観察の場として整備し、生き物と環境の関係や人の営みとの関係を理解する場として活用することをめざしている。

【草原性ビオトープ概要図】



【湿原性ビオトープ概要図】



【草原性ビオトープ】



【児童による田んぼのしろかき】



【地域との会議のようす】

ビオトープの活用方法

- 児童・生徒
 生活科・総合的な学習の時間や理科等で活用する。
 1・2年…秋津の自然の観察(季節毎)
 3年…チョウとなかよし・町探検
 4年…季節の植物
 5年…秋津の米作り
 6年…今私たちにできることin秋津

- 地域住民
 地域の方の憩いの場並びに併設幼稚園の環境教育の場として活用している。今後自然観察会を企画し広く地域に開放する。

ビオトープの効果

- 児童への効果
 自分たちの住む「陸地」としての秋津の自然の様子を身近に観察することにより、自然の仕組みや湿地の環境などについて理解を深めるとともに、隣接する谷津干潟の様子も比較観察することにより、生物の生息環境の多様さについての理解を深める。また、ビオトープの管理を通じ、自然保護の大切さと人間の関わりについて気付くことができる。

- 教職員への効果
 自らが自然にふれる場とすることができ、教職員が自然の大切さ、素晴らしさを感じることを出来る場となる。また、身近な教材として効果的に活用することが出来る。

- 保護者・地域住民への効果
 大人が自然に対する興味を抱き、自然環境の保全に努めたり、親子で多様な生物の観察に訪れたりして生物に関心を持つようになる。

- その他、期待される効果
 日常的な維持管理を地域に依頼している。保護者・地域の方が学校を訪れてくださる。このことを通じ家庭・地域・学校の連携を深めることが出来た。

保護者、地域との連携

- 保護者 (PTA)
 ・ビオトープの改修作業の中心となり、資金提供・作業日程の立案・資材調達改修作業日の連絡等
- 秋津誕生30周年記念事業実行委員会
 ・資金提供
- 秋津小学校パートナー会議
 ・ビオトープ整備実行委員会との提携
 ・資金集めや過去のビオトープ設置の経緯とコンセプトの説明
 ・作業日程・資材調達のアドバイスと交渉・作業等
- その他の地域住民
 ・改修資材の提供、整備改修作業

整備・活用・管理等の課題

- ・チョウやトンボの集まる環境を、掲示板等で広報するだけでなく、食草の育成管理を今後ともしっかり進めたい。
- ・ビオトープ管理委員会をしっかりと地域に根付かせ、児童のビオトープ委員会と協力して管理が行えるよう、互いの役割をさらに明確にしていきたい。
- ・学習の中でどう位置付けるかを、秋津小学校の指導計画としてしっかり吟味・検討し、継続的に活用していくようにする。

今後の展望

- ・今回の整備改修作業をふまえ、今後未実施部分の計画的改修を行う。特に、ビオトープ池部分のポンプの駆動電力としてソーラー発電の導入を進めたい。また、今回の成果を見ながら雨水貯留タンクの容量の見直し(増設)も進め、自然と人間の共存を考える教材・スポットとして整備を進めたい。
- ・秋津の埋め立て以前の風景(遠浅の干潟:谷津干潟)への児童の関心をさらに深めるため、「草原・水辺・干潟」の観察・ふれあいを無理なく学習課程に位置付け特色ある教育としていきたい。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・PTA会員に呼びかけ、多くの人に参加できるようにポスターを作ったりプリントを配布したりするのが大変だったが、一人でも多くの方が「私のビオトープ」と感じてくれるようになったことはうれしいことである。
- ・「地域の人に喜ばれるようビオトープを改修しよう」と子どもたちが考え、調べ、地域の人達や親達と一緒に作業する姿が何よりも良かった。また、地域の人達の意見を聞きながらその意見と整備予定プランの調整を図りながら進めることには特に留意した。



【児童と一緒にビオトープ作り】